

3 令和2年度 主要事業の点検と評価

教育委員会の活性化		所管課 教育総務課									
取組		教育委員会での施策提言、活発な意見交換、学校教育や社会教育の方針決定、各種行事・研修会への積極的な参加									
1 教育委員会の活性化 教育委員会での議論や学校訪問や各種研修会への参加		2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)					
		議論活動	議論活動	議論活動	議論活動	議論活動	議論活動				
R2 【点検と評価】											
所管課 教育総務課		年度評価	A	A	A	A	B				
凡例（→表示）											
目標設定 Plan		単年事業	複数年事業	単年事業	複数年事業	単年事業	複数年事業				
取組内容	①教育委員会の活性化	2016(H28) 営業基準	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)					
		単位	議論活動	議論活動	議論活動	議論活動	議論活動				
※定例教育委員会(毎月)と臨時教育委員会を開催した。											
1 *新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から学校訪問は中止となり、研究発表会、学校行事、各種式典、各種研修会へは必要最低限での参加となつた。											
*加東市総合教育会議に出席し、第2期加東市教育大綱の内容及び今後のICT教育及び新型コロナウィルス感染症への対応について、市長と協議した。											
関連事業 ① 小学校・中学校・認定こども園等への学校園訪問											
成果と評価		取組	継続課題	成果							
Check	①		△小中一貫校開校に向けた取組の推進及び、教育全般に関する活発な議論	▶定例教育委員会で、小中一貫教育の推進への取組報告、学校教育や社会教育について活発な意見交換や、議案に対する審議を行った。 ▶学校教育・社会教育現場の現状把握を行い、また、各種研修会に参加し研修内容の報告をすることで、定例教育委員会での意見交換や提言に繋がることができた。(学校訪問、各種研修会、学校経営研究発表会、入学(園)式、卒業(園)式、成人式、オープンスクール、音楽会、スポーツ大会、文化行事等)※新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から一部の行事については中止、延期及び参加の自粛を行つた。 ▶加東市総合教育会議(7／31、11／16)において、第2期加東市教育大綱における各施策の取組内容、今後のICT教育及び新型コロナウィルス感染症への対応について協議を行つた。							
評価		新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から学校行事への積極的な参加ができるなかつたので、評価は「B」とする。									
今後の課題		取組	課題や改善点								
Action	1		◇教育長のリーダーシップにより、事務局を総括し活発な議論や活動を行う。 ◇東条地域小中一貫校の施設整備などを推進し、教育全般に関する案件について活発な議論を行う。								

R2 【点検と評価】

【点検と評価】		小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実						年度評価																
基本方針1 基本的方向(1)	社会的自立に向けたキャリア形成の支援			2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)																
所管課 目標設定 Plan	学校教育課	成績指標	将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合 (小・中)	目標値	単位 % 6	H27基準値 56.3	2016(H28) 57	2017(H29) 59	2018(H30) 61	2019(R1) 63	2020(R2) 65													
将来の夢や目標を実現するためには、児童生徒の割合65%以上：評価「A」、56%以上：評価「B」、46%未満：評価「C」、46%未満：評価「D」																								
取組内容		<p>①体験活動をとおして職業観、勤労観を培う進路指導の充実</p> <p>1 職業観、勤労観を培うため、系統性を重視した進路学習を実施した。</p> <p>2 主体的に進路選択し、決定できる能力や態度を育成するため、個に応じた進路指導を実施した。</p> <p>②家庭や地域と連携した組織的・系統的なキャリア教育の推進</p> <p>1 キャリアプランニング能力を育成するため、「キャリアパスポート」を活用した取組を推進した。</p> <p>2 他者との協力・協同して社会に参画する態度や、自ら考え主体的に行動し、問題を解決する能力を育成するため、トライやる・ワーク等、多様な体験活動を取り入れたキャリア教育を推進した。</p>																						
Do		<p>①②地域に学ぶ「トライやる・ワーク」推進事業</p> <p>関連事業 ①②地域に学ぶ「トライやる・ワーク」推進事業</p>																						
成果と評価		<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組</th> <th>継続課題</th> <th>成果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①②</td> <td>▷小中連携したキャリア教育を推進するキャリアパスポートの活用</td> <td>・キャリア教育の理解や推進の仕方、キャリア教育を実践していくための指導方法等に関する研修に参加し、「キャリアパスポート」を活用した実践を行うことができた。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>▷生徒の活動の希望に沿うことができるトライやる・ワーク新規事業所の開拓</td> <td>・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業所での活動ができないかたが、トライやるの趣旨にあつた地域に貢献できる活動を行うことができた。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">評価</td><td>将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合が54.6%であったため、評価を「C」とする。</td></tr> </tbody> </table>											取組	継続課題	成果	①②	▷小中連携したキャリア教育を推進するキャリアパスポートの活用	・キャリア教育の理解や推進の仕方、キャリア教育を実践していくための指導方法等に関する研修に参加し、「キャリアパスポート」を活用した実践を行うことができた。	②	▷生徒の活動の希望に沿うことができるトライやる・ワーク新規事業所の開拓	・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業所での活動ができないかたが、トライやるの趣旨にあつた地域に貢献できる活動を行うことができた。	評価		将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合が54.6%であったため、評価を「C」とする。
取組	継続課題	成果																						
①②	▷小中連携したキャリア教育を推進するキャリアパスポートの活用	・キャリア教育の理解や推進の仕方、キャリア教育を実践していくための指導方法等に関する研修に参加し、「キャリアパスポート」を活用した実践を行うことができた。																						
②	▷生徒の活動の希望に沿うことができるトライやる・ワーク新規事業所の開拓	・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業所での活動ができないかたが、トライやるの趣旨にあつた地域に貢献できる活動を行うことができた。																						
評価		将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合が54.6%であったため、評価を「C」とする。																						
今後の課題		<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組</th> <th>課題や改善点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①②</td> <td>▷「キャリアパスポート」のさらなる活用を図り、小中連携したキャリア教育を充実させる。 ▷生徒の活動の希望に沿うことができるように、トライやる・ワーク新規事業所の一層の開拓に努める。</td> </tr> </tbody> </table>											取組	課題や改善点	①②	▷「キャリアパスポート」のさらなる活用を図り、小中連携したキャリア教育を充実させる。 ▷生徒の活動の希望に沿うことができるように、トライやる・ワーク新規事業所の一層の開拓に努める。								
取組	課題や改善点																							
①②	▷「キャリアパスポート」のさらなる活用を図り、小中連携したキャリア教育を充実させる。 ▷生徒の活動の希望に沿うことができるように、トライやる・ワーク新規事業所の一層の開拓に努める。																							
Action		<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組</th> <th>課題や改善点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①②</td> <td>①②</td> </tr> </tbody> </table>											取組	課題や改善点	①②	①②								
取組	課題や改善点																							
①②	①②																							

R2 【点検と評価】

基本方針1 基本的方向(2) Plan	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実 グローバル化に対応した教育の推進	年度評価		2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
		所管課	学校教育課	H27基準値	B	B	B	B
目標設定	成果指標	目標値	単位	38.9	40	42	45	50
英検3級相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合	実績値	%	%	39.9	43.9	47.2	46	49
取組内容	英検3級相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合が50%以上:評価「B」、39%以上:評価「C」、35%未満:評価「D」							
①外国人留学生や姉妹都市の学校との交流等による国際理解教育の推進								
1.2 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から未実施								
②英語教育の充実								
1.2 ALTと英語担当教員のチームティーチングを通して、ネイティブの英語に触れる機会や外国人とのコミュニケーションの機会を提供することができます。								
3.4 より実践的な英語力の向上を図るため、市独自の「かとう英語ライセンス制度」を改善を加えて実施した。								
5 英語への興味関心を高め、英語力の向上を図るために、英検の検定料を助成した。								
③ICT機器を活用したプレゼンテーション活動の充実								
1 一人1台学習者用タブレットパソコンを整備し、授業での活用を推進した。								
2 正しく安全にインターネットを利用する態度や能力を育成するよう、研究や研修を行った。								
3.4 ICT機器を授業で効果的に活用できるよう、研究や研修を行った。								
関連事業	① 外国人留学生との交流 姉妹都市(オリンピア市)の学校との交流 ② かとう英語ライセンス制度 加東わくわく英語村 ③ ICT教育研究推進事業 情報モラル学習							
成果と評価	取組 繼続課題	成果						
Check	① 姉妹都市の学校との交流の継続 ② 小中一貫した英語教育の推進 ③ 情報活用能力指標の活用	① ▷新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から交流を実施することができなかった。 ② ▷GTEC Juniorを実施し、小中の英語教育の接続に活用することができた。 ③ ▷レッスンブックの内容改善について検討し、改訂することができた。 各学校において、情報活用能力指標・年間指導計画を活用した取組を推進することができた。						
今後の課題	取組 課題や改善点	評価 英検3級相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合が49.0%だつたため、評価を「B」とする。						
Action	① ◇新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から直接の交流が難しいため、交流の方法について検討する。 ② ◇小中一貫した英語教育の充実に引き続き取り組む。かとう英語ライセンス制度の充実を図る。 ③ ◇一人一台パソコンの活用を推進する。							

R2 【点検と評価】

基本方針1 基本的方向(3)		小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実 地域人材や地域資産等を活用した「ふるさと学習」の推進		年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
所管課 目標設定 Plan	小中一貫教育推進室 学校教育課 成果指標	ふるさと学習「かとう学」の副読本の作成準備状況		年	B	B	C	B	B
取組内容 Do	副読本作成の進捗進行率30%以上:評価「A」、20%以上:評価「B」、10%未満:評価「D」 ①地域人材や地域資産を活用した、地域に学ぶ「ふるさと学習」の実施 1 「ふるさと学習」副読本の内容を検討した。 2 地域人材や地域資産等を活用した郷土の歴史や文化等にふれる副読本を作成した。 3 ゲストティーチャーを積極的に活用した。	① 小学校「加東遺産」めぐりの旅 関連事業 ① 小学校「加東遺産」めぐりの旅	取組 繼続課題 ①	成果	教職員の意見を反映させ具具体的な調整を行いながら、上巻と下巻ごとに原稿案の推敲・編集を進め、副読本を完成了。 ▶「加東遺産」めぐり、総合的な学習の時間等において、ゲストティーチャーを招聘することで学習を深めることができた。				
成果と評価 Check	ふるさと学習「かとう学」副読本が完成し、評価を「B」とする。 ① 学校や関係部署との連携による、ゲストティーチャーの登録の充実	取組 繼続課題 ①	評価	△「ふるさと学習」の内容の精選と編集作業の推進 ▶学校や関係部署との連携による、ゲストティーチャーの登録の充実					
今後の課題 Action	課題や改善点 ① ◇学校や関係部署と連携を図り、ゲストティーチャーの登録を充実させる。 ◇副読本の活用促進を計画する。	取組 課題や改善点 ①							

R2 【点検と評価】

基本方針1 基本的方向(4) ① 小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実		年度評価 2016(H28) 2017(H29) 2018(H30) 2019(R1) 2020(R2)											
所管課 目標設定 Plan	小中一貫教育推進室 学校教育課	H27基準値		B		B							
		目標値	単位 %	実績値	%	40	44						
交流活動実施率55%以上:評価「A」、40%以上:評価「B」、33%以上:評価「C」、33%未満:評価「D」													
取組内容 ①小中一貫校開校に向けた児童生徒の交流活動と教職員研修の計画的な実施													
Do ② 計画的、継続的な教職員研修の実施 ③ 中学校区ごとにカウンセリングマインド研修を実施した。 *義務教育9年間を見通した系統性のある教科等カリキュラムの活用	1 小学校間の児童交流、小中学校間児童生徒交流の計画的な実施 *学年毎の校外学習の機会を捉えて、新型コロナウィルス感染拡大防止の対策を講じながら、できる範囲での交流を実施した。	④ 道徳の研修を小中一貫の4-3-2制のステージで実施した。 *中学校区ごとにカウンセリングマインド研修を実施した。											
	⑤ 小中一貫教育カリキュラムの活用 *義務教育9年間を見通した系統性のある教科等カリキュラムの活用を図った。	⑥ 関連事業 ① 道徳教育実践研究事業 ⑦ 成果と評価 取組 繼続課題											
	⑧ Check ① 教職員研修の計画的な実施 ⑨ 体験活動を通じた小中学校間交流の充実	⑩ 成果 ▶先進校の事例を研究し、小中一貫教育を通して9年間の学びの姿を、地域ごとにグランドデザインとして表すよう研修を深めた。 ▶自然学校の同日程実施に加え、学習成果の学校間発表や校外活動の合同開催を行うことで、交流を広めた。 ▶小学校の行事で中学校の吹奏楽部が演奏を披露したり、事前準備を手伝つたりするなど交流を深めた。											
評価 新型コロナウィルスの影響で、教育課程の再編成を余儀なくされたが、工夫を加え前年度同様の実施率は確保しているため、評価を「B」とする。													
今後の課題 Action ① 児童会生徒会活動や体験活動等を通じた小中学校間の交流を継続する。 ② グランドデザインに基づき、各地域で小中一貫教育の推進に向け、具体的な教育活動を検討する。													

R2
【点検と評価】

所管課 目標設定 Plan	小中一貫教育をどのようにして自立した子どもを育む学校教育の充実 小中一貫校開校にむけた適切な準備	年度評価		2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
		目標値	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
取組内容 Do	②「小中一貫校開校準備委員会」の設置、運営 加東市東条地域小中一貫校開校準備委員会 *開校準備委員会を開催した。 *専門委員会を開催した。 1 加東市社地域小中一貫校開校準備委員会 *開校準備委員会を開催した。 *専門委員会を開催した。	目標値 実績値	- 回数	なし 3	— 3	— 3	開校準備委員会 開校準備委員会 開校準備委員会 6	— — 7	
成績と評価 Check	② 東条地域小中一貫校建設工事 社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務 関連事業 取組 繼続課題	<p>成果</p> <p>▶東条地域小中一貫校開校準備委員会(7／9、10／8)等で、東条地域小中一貫校建設工事概要、校歌・校名披露、令和3年4月からのスクールバス運行計画、コミュニケーションスクールなどについて説明、協議した。専門委員会(学校運営委員会7／9)</p> <p>▶社地域小中一貫校開校準備委員会(5／8、5／26、6／25、9／24、10／27)等で社地域小中一貫校基本・実施設計仕様書、採用した設計業者のプロポーザル提案書内容などについて、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一部代表者会議に代えるなどして説明・協議したが、通学路の協議はやむなく翌年度に持ち越した。専門委員会 施設整備委員会10／13)</p> <p>▶東条地域小中一貫校工事を6月から施工、令和3年11月完成を目指して工事を進めている。社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務を8月からスタートし、今年度基本設計、令和3年度実施設計に取り組む。</p> <p>▶広報かとうや市ホームページを使用して、情報発信を行った。</p>							
今後の課題 Action	取組 課題や改善点 ② ◇社地域小中一貫校開校準備委員会について、小中一貫校開校に向け、検討や課題を協議するために、開校スケジュールに合わせ運営する。	評価	<p>一部協議を翌年度に持ち越したので、評価を「C」とする。</p>						

R2 【点検と評価】

基本方針2 基本的方向(1)		「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成									
所管課 目標設定 Plan	学校教育課、こども教育課、発達サポートセンター	年度評価		2016(H28)		2017(H29)		2018(H30)		2019(R1)	
		目標値	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	B	B
家庭など学校での授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合(小・中)		目標値	%	61.9	62	66	70	70	72	70.4	
平日の家庭学習時間が1時間以上が72%以上:評価「A」、65%以上:評価「B」、60%未満:評価「C」、60%未満:評価「D」											
取組内容											
①効果的な授業形態の展開											
1 児童生徒の学力向上に向け、授業改善を図るため、教員免許所持者や教員志望の大学生等を指導員とした自主学習室を夏季・冬季休業期間中に設けた。 2 基礎基本の定着を図るために、家庭学習や計算学習、朝読書を週4回以上行った。 3 児童生徒の学習上のつまずきを支援するために、学習支援員を配置した。 4 きめ細かな学習指導を行ったために、少人数指導、同室複数指導を実施した。											
②家庭学習の習慣化											
1 児童生徒の自主学習を支援するため、教員免許所持者や教員志望の大学生等を指導員とした自主学習室を夏季・冬季休業期間中に設けた。 2 家庭学習を充実させるため、「家庭学習の手引き」を活用した。 3 児童生徒の学習習慣を定着させたため、放課後補充学習を全小中学校で実施した。 4 子どもの読書活動の推進を図るために、朝読書を推進し、読書の習慣化を図った。											
③理数教育の充実											
1 理数教育の充実を図るために、小学校高学年で教科担任制による指導を実施した。 2 理科授業の活性化を図るために、観察や実験のための教材・設備を充実させた。 3 児童生徒の興味関心を高めるため、ゲストティーチャーを招聘した特別授業を実施した。 4 教員の指導力向上を図るために、高等學校教員等を校内研修の講師として招聘し、観察実験実習研修を実施した。 5 科学好きな中学生が集い、活躍できる場を提供するとともに、理数に対する興味・関心を高める機会とするため、「数学・理科甲子園ユニバ」への参加を促進した。											
④特別支援教育の充実											
1 スクールアシスタントや介助員の特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を要する児童生徒を支援した。 2 *就学に際して、適切な就学指導を行うため、保幼小連絡会等の場で市内学校園と十分な情報共有を行った。 *「できる・わかる授業」の充実を図るために、小学校1年生にひらがな単語聴写テストを行い、誤り分析結果を元に巡回相談を実施した。 *一人一人の教育的ニーズにあつた適切な指導を行つたため、市内小中学校を対象に専門家派遣型教育相談(DEJUコラ)を実施した。 3 早期から一貫した支援を提供するため、サポートファイルや個別の指導計画などの作成、様式の一部変更及び活用を図った。 4 発達障害児等への支援による通級指導を実施し、ソーシャルスキルトレーニングや教科学習の補充を行つた。 5 学校生活支援教員による相談、臨床心理士による相談・発達検査、医師による診察を計画的に実施した。											

Do

(5) 就学前教育の充実		1 私立認定こども園等の施設整備に係る費用の助成を行った。 2 認定こども園、保育所の職員を対象に、保育教諭のスキルアップを図るために研修を実施した。(保育士等キャリアアップ研修) 3 公立認定こども園、保育所で交流保育を行い、他施設の園児とのふれあいの機会を提供した。 4 子育てに関する相談や情報の提供を行った。 5 多様化する保育ニーズに対応するため、延長保育、一時預かり、休日保育、病児病後児保育を実施した。 6 幼児期に「思いやり」や「いたわり」の心を育み、「違いを違い」と思わない「絶対人権感覚」を培うためのセミナーを開催した。																			
関連事業		① 学習チューター派遣事業、新学習システム推進事業、学力向上推進事業、学習支援員配置事業 ② 放課後における補充学習等推進事業、スタディライフ事業 ③ サイエンス・トライやる事業 ④ インクルーシブ教育システム構築事業・保幼小発達支援連絡事業 ⑤ 保育所等運営事業、地域子ども・子育て支援事業、幼児期人権教育事業、教育無償化保育料軽減事業																			
成果と評価		<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組</th><th>継続課題</th><th>成果</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">Check</td><td>①</td><td> ▷児童生徒のつまずきの把握・つまずきの解消方法及び授業改善についての検討 ▷「家庭学習の手引き」の活用 ▷主体的に学習する習慣の定着 </td></tr> <tr> <td>②</td><td> ▷理数学習に対して、主体的・対話的で深い学びの実現に対する授業改善の方法について学ぶことができた。 </td></tr> <tr> <td>③</td><td> ▷小学校教員対象の観察・実験実技研修を実施することで、児童が興味をもち、主体的、対話的で深い学びの視点の実現に向けて学ぶことができた。 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> ④ ▷インクルーシブ教育システムの充実 ▷就学前教育・保育の質の向上 </td></tr> <tr> <td colspan="2"> ⑤ ▷就学前教育・保育の質の向上 </td></tr> <tr> <td colspan="2">評価</td><td colspan="2"> 平日の家庭学習の時間、1時間以上の割合が70・4%により、評価「B」とする。 </td></tr> </tbody> </table>		取組	継続課題	成果	Check	①	▷児童生徒のつまずきの把握・つまずきの解消方法及び授業改善についての検討 ▷「家庭学習の手引き」の活用 ▷主体的に学習する習慣の定着	②	▷理数学習に対して、主体的・対話的で深い学びの実現に対する授業改善の方法について学ぶことができた。	③	▷小学校教員対象の観察・実験実技研修を実施することで、児童が興味をもち、主体的、対話的で深い学びの視点の実現に向けて学ぶことができた。	④ ▷インクルーシブ教育システムの充実 ▷就学前教育・保育の質の向上		⑤ ▷就学前教育・保育の質の向上		評価		平日の家庭学習の時間、1時間以上の割合が70・4%により、評価「B」とする。	
取組	継続課題	成果																			
Check	①	▷児童生徒のつまずきの把握・つまずきの解消方法及び授業改善についての検討 ▷「家庭学習の手引き」の活用 ▷主体的に学習する習慣の定着																			
	②	▷理数学習に対して、主体的・対話的で深い学びの実現に対する授業改善の方法について学ぶことができた。																			
	③	▷小学校教員対象の観察・実験実技研修を実施することで、児童が興味をもち、主体的、対話的で深い学びの視点の実現に向けて学ぶことができた。																			
④ ▷インクルーシブ教育システムの充実 ▷就学前教育・保育の質の向上																					
⑤ ▷就学前教育・保育の質の向上																					
評価		平日の家庭学習の時間、1時間以上の割合が70・4%により、評価「B」とする。																			

今後の課題	取組	課題や改善点
	(1)	◇基礎学力を向上させるため、児童生徒のつまづきを把握し、その解消方法を分析するとともに、加東市学力向上プロジェクト委員会作成の授業づくりのポイント並びに学習環境・学習規律づくり・児童生徒への関わりのポイントを活用して、授業改善に取り組む。
	(2)	◇主体的に学習する習慣を定着させたため、「家庭学習の手引き」の活用、放課後補充学習・加東スタディライフを引き続き実施する。
	(3)	◇理數学習に対する子どもの関心・意欲をさらに高めるために、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、引き続き指導方法の工夫改善を図る。
Action	(4)	◇発達検査及び発達相談件数の増加に対応できるよう、相談事業を増加する必要がある。 ◇センターの事業等を市民に知ってもらうため、随時、多様な媒体による情報発信を行う。
	(5)	◇児童教育・保育の質の向上と待機児童の解消のため、保育教諭及び保育士を確保する必要がある。 ◇職員のスキルアップを図る必要がある。 ◇幼児期の教育・保育と小学校教育のより円滑な接続を図る必要がある。 ◇「幼児期人権教育指導者養成セミナー」を受講した保育教諭、保育士及び児童厚生員等の教育・保育場面での実践についてフォローする必要がある。

R2 【点検と評価】

目標設定 Plan	「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進 自分の方針(2) 自尊感情や思いやりの心の醸成	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
		所管課 学校教育課	目標値 % 26.3	単位 H27基準値 29 32.8	実績値 % 34.8	B 37.6	B 40 45 37.1
取組内容 Do	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合45%以上:評価「A」、27%以上:評価「B」、20%未満:評価「D」	①発達段階に応じた系統性を重視した体験活動の実施	1 命を大切にする心や思いやりの心、自尊感情や規範意識を養うなど、「心の教育」の充実を図るため、児童生徒の発達段階に応じた系統性を重視した体験活動を推進した。	4	②異年齢交流や縦割り班活動の意図的・計画的な実施	1 異年齢交流を活発にするため、新型コロナウィルス感染拡大防止の対応をとりながら、できる限り小学生と中学生が一緒に活動出来る機会を設定した。 2 異学年交流を深めるため、新型コロナウィルス感染拡大防止の対応をとりながら、できる限り縦割り班活動を実施した。 3 継続的に交渉し合う機会を設定するため、交流学年を決め、交流活動をした。	③家庭や地域と連携した道徳教育の充実
		④道徳教育を家庭へ広げる一助とするため、「兵庫版道徳教育副読本」等の教材本を家庭に保管させた。 ⑤家庭・地域と連携した道徳教育を推進するため、授業参観、オープンスクール等での道徳の授業公開を実施した。 ⑥講師を招聘し、対話を通して考えを深める道徳学習のあり方にについて重点的に研修した。	1 道徳教育を家庭へ広げる一助とするため、「兵庫版道徳教育副読本」等の教材本を家庭に保管させた。 2 家庭・地域と連携した道徳教育を推進するため、授業参観、オープンスクール等での道徳の授業公開を実施した。 3 講師を招聘し、対話を通して考えを深める道徳学習のあり方に研修した。	⑦豊かな人権感覚を育むため、市内小学校5・6年生及び中学生を対象に講演会を実施した。 ⑧臨時休校期間中に、全学校で人権教育研修(部落差別、コロナ差別)を人権協働課と連携して実施し、教職員の人権意識の向上を図った。 ⑨人権意識の向上をねらう授業を行うために、加東市人権・同和教育研究協議会と連携し、各学校の人権教育の授業実践を交流した。	① 環境体験事業 (小3) ② 入学体験 部活動体験 運動会・講演会での交流 ③ 道徳の授業スキルアップ支援プログラム ④ 小中学校人権教育講演会 人権教育スキルアップ講座 加東市人権・同和教育研究協議会学校教育部会	開連事業	

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	①	▷児童生徒の実態や地域の実情に応じた活動内容の工夫	▶学校・家庭・地域が連携し、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から活動内容を工夫し、命や自然を大切にする心や思いやりの心、自尊感情や規範意識を育むことができた。
	②	▷小中学校間の交流の推進	▶小学校の音楽会や運動会で、中学校の吹奏楽部が演奏を披露したり、中学生が小学校の運動会準備を手伝ったりするなど、小中学校間の交流を通して、目指す姿の共有や自己有用感の構築につながった。
	③	▷特別な教科道徳の実施により、年間指導計画の見直しや主体的・対話的な授業に向けた研究の推進	▶道徳担当者会を中心として研修を実施し、主に対話を通して考えを深める道徳学習の研修を深めた。 ▶検定教科書の活用を図るため、年間指導計画を更新した。
	④	▷さまざまな人権課題の解決に向けた人権教育の充実	▶各校において、横断的に人権教育に取り組むと共に、講演会等を通じていじめ等の人権侵害を許さない態度や行動を起こす等の実践力を育むことができた。また、各校でコロナ差別を許さない取組を進めることで、自分や他者を尊重する心情を豊かにすることができた。
評価	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合が37.1%であったため、評価を「B」とする。		
	取組	課題や改善点	
	①	▷体験活動を通して学んだことが教科等の学習の中で活かされるよう、児童生徒の実態や地域の実情に応じた活動の工夫に引き続き取り組む必要がある。	
	②	▷異年齢の交流によるモデル化や自己有用感の構築に向け、小中学校間の交流をさらに進めしていく必要がある。	
	③	▷特別な教科道徳の実施により、対話を通して考えを深める道徳の授業に向けたさらなる研究が必要である。	
今後の課題	④ ◇あらゆる人権課題の解決に向けて、発達段階に応じた教材研究や授業実践を積み重ねていくことが必要である。		
	取組	課題や改善点	
	①	▷児童生徒の実態や地域の実情に応じた活動の工夫に引き続き取り組む必要がある。	
	②	▷異年齢の交流によるモデル化や自己有用感の構築に向け、小中学校間の交流をさらに進めいく必要がある。	
Action	③	▷特別な教科道徳の実施により、対話を通して考えを深める道徳の授業に向けたさらなる研究が必要である。	
	④	▷あらゆる人権課題の解決に向けて、発達段階に応じた教材研究や授業実践を積み重ねていくことが必要である。	

R2 【点検と評価】

基本方針2	「生きる力」としての「確かに学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進	年度評価	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)		
基本的方向(3) ①	心身の健康増進・個性の伸長		B	C	B	B	B		
所管課	学校教育課								
目標設定	成果指標	目標値	単位	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)
Plan	いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う児童生徒の割合(小6・中3)	実績値	%	79.4	84	86	88	90	92
取組内容	① 小中学校教員の情報共有による一貫した児童生徒への指導の充実	どんな理由があつてもいけないことだとと思う児童生徒の割合92%以上:評価「A」、80%以上:評価「B」、75%以上:評価「C」、75%未満:評価「D」							
	② 発達段階に応じた学校行事の実施	1 学級集団の状態(児童生徒の心理面)を把握するために、市立小中学校4年生以上の全児童生徒を対象にHyper-QUテストを実施した。 2 いじめの未然防止、早期発見・対応を行うために、いじめ・虐待調査を小中学校の全校生で実施した。 3 不登校生の内面理解と対応について教員が共有するために対策委員会を開催し、初期対応マニュアルを作成して、活用した。 4 ネットいじめや誹謗中傷等の相談に対するため、特別監視員や関係機関と連携して支援・指導を行った。 5 児童生徒の情報モラルやセキュリティに関する意識を高めるため、各校で校内研修を行い、各事例に対応した。 6 広域に及ぶ青少年のインターネット上の非行や被害を防止するため、加東市ネット見守り隊監視員と毎月情報交換を行い、適宜、学校に情報提供を行った。							
	③ 運動の習慣化と健康教育、地域と連携した教育の推進	1 児童一人一人の個性や能力を伸ばすために、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応をとりながら、できる限り異学年交流や縦割り班活動等を実施した。 2 児童生徒が自ら計画し、主体性をもつて取り組める行事や自己を見つめたり感謝の気持ちを表したりする機会を設けた。(6年生を送る会、3年生を送る会等)							
Do	① 関連事業	① 児童生徒の学校生活実態把握調査 Hyper-QUテスト ② 出前授業 ③ 部活動指導員配置・外部指導者派遣事業 食育推進事業 子どもの体力向上推進事業							

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	(1)	▷各校におけるいじめ認知数の向上	▶管理職や担任以外の教職員が回答内容を確認する調査機会を設定することで、担任に言いにくい困りごとを把握することができた。
	(2)	▷中学校区の小学校間の交流の推進	▶新型コロナウイルス感染拡大防止の対応をとりながら、小学校間の交流学習の機会をできる限りつくり、つながりを深めることができた。
	(3)	▷給食センターと各学校及び関係機関の連携による食育の推進	▶学期に1回の和食給食等を活用し、社高校等の関係機関と連携して、和食の文化伝統に対する正しい理解を身につける機会が提供できた。
	評価	児童生徒の割合が87.9%だったため、評価を「B」とする。本来、目標値は100%であるべきであり、それをを目指して取組を進めが必要がある。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
	(1)	▷引き続き、いじめ認知数の向上に努めるとともに、いじめ認知後の初期対応から事後指導まで、適切にできるように教職員研修を実施する。また、被害児童、加害児童の指導後の教育相談を充実させる。	
	(2)	△小中一貫校の開校、並びに開校に向けた取組を進めるために、学校オープン等でさらなる小中学校間の交流を図り、9年間を見通した行事を推進する。	
	(3)	△新型コロナウイルス感染拡大防止に対応するため、個々で継続した運動を行う機会を設ける。 △保護者を対象に、和食の文化や望ましい食習慣について研修する機会を提供する。	

R2
【点検と評価】

基 本 方 針 2		「生きる力」としての「確かに学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進		年 度 評 価		2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
基 本 的 方 向(3) ②		心身の健康増進・個性の伸長		C	C	C	C	A	A	A	
所管課 目標設定 Plan	学校給食センター	成 果 指 標	地元食材の使用率	目 標 値	H27基準値	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	
				実 績 値	%	16.2	17	17	17	18	
取組内容 Do	③ 運動の習慣化と健康教育、地域と連携した食育の推進 6 地産地消を推進するため、かとう夢プラン「楽しみのある学校給食特別メニュー」(毎月1回)として、地元の果物を使用した桃ゼリーやいちごジャムを提供した。 7 *「かとうの献立」「かとうの給食」を毎月、配布した。 8 *学年に1回年3回、和食給食提供日に食育授業を行い、「食育だより」も同時に発行し、食育を推し進めた。 *社高校と連携して「かとう和食の日」に合わせた食育活動を市立小中学校で取り組み、和食の大切さの啓発を行った。	年次目標値以上:評価「A」、基準値以上:評価「B」、基準値未満:評価「C」、数値の減少が続く:評価「D」									
関連事業 成 果 評 価	③ 給食指導訪問 社高校生活科学科との連携 楽しみのある学校給食特別メニュー 取組 Check	成 果 取組 ③	③ 給食指導訪問 ③ 地元生産者からの食材確保	成 果 ③	▶平成25年度から実施のかとう夢プラン「楽しみのある学校給食特別メニュー」(毎月1回)で加東市産食材を提供し、加東市の学校給食の特色を出して食への興味・関心を高め、より一層魅力ある学校給食の充実を図った。 ▶地産地消として、最も生産量が多い地元産玉ねぎ3.12トンを購入。冷凍加工し、衛生面や下処理に要する時間など考慮し、通年使用できるよう工夫した。 ▶地元産食材を使用した加工食品「もちゼリー」、「滝野なすのミートグラタン」、「オリジナルコロッケ」、「いちごジャム」に加え「ぶどうゼリー」、「ぶどうジャム」を給食に取り入れた。 ▶加東市産もち麦を活用するため、主食のみならず蒸したもち麦をサラダにアレンジするなど消費を拡大した。 ▶「全国学校給食週間」の取組として、地元食材を用いた給食のメニューを応募し、優秀献立として新聞記事に掲載された。						

	<p>△かとう夢プラン等の新メニューを考案</p> <p>▷学校での食育活動支援(訪問指導)</p>	<p>③</p> <p>◎栄養教諭2名と食育推進専門員による学校訪問が新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施できなかつたので、食育を啓発するポスターを作成し、例年指導している内容を伝えた。地場産物を活用した給食の内容について、食材の特徴や調理の方法など55種類のポスターを作成し児童生徒に伝えた。</p> <p>▶5月の緊急事態宣言の終了後、給食車両に合わせて、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各学校の給食時間の状況を確認し助言を行つた。</p> <p>▶三草小学校1年生と2年生が学内で育てた野菜を給食に活用した。学校で調理して食べることができないので、給食センターで調理した野菜について、児童生徒に説明をして野菜に興味を持たせるようにした。</p> <p>▶2学期の「かとう和食の日」に合わせて社高校生活科学科の生徒と連携し、加東市産もち麦の良さをポスターにまとめ、食育の指導を行つた。</p> <p>▶加東市産の「ぶどう」「ぶどうゼリー」「もちゼリー」「ももゼリー」を給食に提供した。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から生産者との交流ができないなかつたので、ポスターで栽培と生産の様子を伝えた。</p> <p>▶山田錦は、加東市の特産であるが、児童は山田錦の酒粕を食べる機会が少ないので給食で提供し、食べる経験を広め地域の食材のすばらしさを感じることができると取組を行つた。</p> <p>▶毎月の「かとうの給食」「かとうの献立」、学期に1回の「食育だより」を配布することにより、児童生徒に給食の魅力を伝えた。</p> <p>▶食育推進会議及び食育推進事業の指定を受けた2校(福田小学校・社中学校)が2年間にわたって開催され、各学校に配布して成果の共有を行つた。</p>	<p>◎旬の食材を大量に仕入れ加工したり、もち麦をアレンジして使用したことで地元食材の使用率が、昨年度対比でも伸びたので評価を「A」とする。</p>
今後の課題 Action	取組 ③	課題や改善点 △加東市産食材の活用を更に高めるため、新メニューを考案して給食に提供できるようにする。	